

◎新しい仕組みのイメージに関するヒアリング結果		参考資料 2
カテゴリ	発言内容	発言委員(敬称略)
(1)ACT、TAC、助成事業選考委員会の設置について		
①ACT	・webだけでなく、リアルな交流の場もほしい。 ・ACTと県民の関わりを示せたらよい。例えば、「推しアーティスト」がいる人も多いので、「アーティストサポーター」というような形で、県民もACTに関わっていけることを示せたら、県民も一緒になって盛り上げていくという見え方になってよいのではないか。応援するサポーターがいれば、県民全体のウェルビーイング向上につながる。	内山
	・10年後に県民が文化を享受できるようにするためにアートが県民の中に入り、幸福度を高めていくという目的や役割が大事であり、その目的を実現するための実行組織がアーツカウンシル。	佐部利
	・ACTで芸術家を生み出し、育てる土壌を作るインキュベーター的な役割を持つべき。そうした土壌があれば、ACTに登録・参加する意義が見出せる。 ・ACTの主な役割は、県民や企業とのマッチングや文化芸術活動の活性化。	武内
	・個人や団体の動きを情報収集することができ、繋がりを保つことができる組織が必要。 ・こぼれたものを拾い上げる動きや、県民がアートに本格的に踏み出す機会を創出するためのプラットフォームになるとよい。	米田
②TAC	・TACや助成審査機関はACTの外にある方が、透明性が高く見えてよい。	内山
	・アーツカウンシルの設置にあたっては公平性の担保が一番の課題。 ・ACTの具体的な事業はTACで決めたらよい。	佐部利
	・TACは中立的な人選が必要。審査員は定期的に代えないと弊害が生じる。	藤井
③助成事業選考委員会	・助成事業審査会には富山の文化の担い手を育成する観点のほか、分野、地域、国を超えて交流していくことの重要性を理解している人材が必要。	伊東
	・助成の公平性を必ず整理するべき。例えば、審査員の定期的な交代が必要。	内山
	・利害関係者は助成事業の審査員に入れない形にするべき。	佐部利
	・助成事業審査会を設置し、審査員を登録しておいて、助成メニュー等に応じたメンバーで審査・アドバイスしてもらうとよい。	米田
(2)主な取組み(機能)		
①情報発信・共有 (webサイトの構築・運用)	・色々な主体が活動発表や公募を行っているが、人が集まらないという課題があるため、ACTで情報発信を一元化できるとよい。 ・ACT上で作品の展示会の案内や施設の空き情報を掲載したら、サイト利用者の利便性が高まる。	内山
②相談支援	・事務局ですべての相談対応を行うのではなく、知識のある専門家に繋ぐ伴走支援の形がよい。 ・広報や資金調達、組織の立ち上げなど、テーマを決めて専門家による講習会を実施してはどうか。	清原
	・助成金の審査で不採択になった場合、不採択の理由や資金確保の方法を教えてフォローすることが必要。 ・ACTの主な機能はアドバイスや評価であり、自主的に事業を行うところではない。	佐部利
③助成金交付	・アーツカウンシルの役割は助成金を出して終わりではなく、きめ細かく育てていくことであり、伴走支援の助成メニューが必要。	伊東
	・助成対象は地域活性化に資する文化芸術活動への支援に絞るなど理屈がつく事業に対する支援がよい。 ・助成後のアフターケアや評価が必要。	清原
	・助成事業は若手の育成につながるなど、何かしらの目的が必要。 ・特に評価が重要であり、どのくらいの人が文化を享受できたのかを評価し、次年度に向けて蓄積していくことが必要。	佐部利
	・書類選考を通過した団体等のプレゼンテーションを実施し、オープンな場で審査する形式がよい。書類選考からプレゼンテーションという流れにより、内容のブラッシュアップができるとよい。	武内
	・助成を受けるのであれば、今まで来てくれなかった人が来てくれるようになるなど、客層を広げることが大事。 ・アーティストだけではなく、公演や展覧会の主催者や支援者(アーティストに活動の場を提供する者)も助成対象としたらよい。 ・メインはアーティストの活動に対する助成という整理にして、その他、知見を広げるための研修会に係る助成や手話通訳などアクセシビリティの向上に資する取組みに対する助成があるとよい。	米田
④マッチング	・働き方改革により教員が指導できず、文化部を中心に困っているという課題があるため、そういった課題に対してACTを活用できることを教育セクションに案内できる仕組みが必要。 ・アーティストの登録ページに作品や自身の活動に関するYouTubeやインスタグラム等のリンクを掲載したり、課題を抱える人が悩み事や求めていることを掲載したりできれば、マッチングしやすい。 ・リアル(対面)での説明会や発表会などのイベントを行ったらよい。若者向けの分野や伝統芸能など多種多様なジャンルの人が集まることにより、面白い化学変化が起きる可能性がある。	内山
	・若者への支援や享受する側の楽しみを増やすこと、マッチング等を前面に打ち出していくべき。 ・例えば、観光と絡めてアーティストレジデンスをしたり、若手アーティストに展示場所を貸し出したり、お互いを組み合わせることで面白さが増すのがマッチング。 ・青年会議所や商店街との連携もよい。商店街の空きスペースで展示やワークショップをしたり、デパートとタイアップすることも考えられる。 ・企業とマッチングできれば、企業のイメージアップや企業がスポンサーになってくれることに繋がる可能性がある。	佐部利
	・企業から大学にアーティストに絵を描いてほしいという相談があり、卒業生を紹介した事例がある。そういったマッチングをACTでできるとよい。 ・具体的なマッチングのモデルをいくつか例示すれば、マッチングしたいと思う主体も増えていくのではないかな。	三宮
	・企業がアーティストから作品をレンタルして飾るといったマッチング例もある。そうした取組みがアーティストや作品の認知度向上に繋がる。 ・民間企業だけではなく、文化施設や学芸員などもACTに取り込んで、意見交換や連携を強化していくことが必要。	武内
	・作品の買い取り可やリースのみ可といった情報をサイトに掲載できると、企業と作家がマッチングしやすい。 ・空き家をアトリエとして活用し、アーティストに滞在してもらえるようにできたら、空き家対策にも繋がる。	藤井
	・企業では文化的視点を養う初任者研修やアールブリュットの鑑賞会を行っており、マッチングできる余地がある。	米田

カテゴリ	発言内容	発言委員(敬称略)
(3)登録制のあり方		
登録制	・登録制とする場合、対象を限りなくゆるやかにし、後援の承認基準を参考に登録対象として問題ないか調べてはどうか。	伊東
	・登録制には賛成。登録することによるメリットを示すべき。	内山
	・登録制にすることにより、ゆるやかなネットワークに繋がりたい人やチャンスが欲しい人が登録する。 ・助成金の採択が決定した段階で登録してもらうことで団体の活動データの蓄積や情報収集ができる。	佐部利
	・登録の有無に関わらず助成金を申請できるとよい。	島添
	・助成金の採択が決定したら、登録してもらってはどうか。助成金をもらうからには文化振興に協力してもらい、活動報告もしてもらった方がよい。	米田
(4)財源のあり方		
財源	・将来的にサービスを拡大し、運営財源にする見込みがあるのであれば、会費を徴収した方がよい。	内山
	・登録制にするのはよい。ACT設立当初は無料にして、後から有料化を検討してもよい。情報発信のみの会員とマッチングや伴走支援を受けられる会員など、プランごとにランク付けしてもよいかもしれない。	清原
	・会費を徴収する場合、会費に見合ったメリットが必要。	佐部利
	・安定した運営のために入会金があってもよいのではないかと。入会金と登録者増加の両方のバランスが取れるような仕組みが必要。 ・例えば、商工会議所は入会金と登録が必要だが、入会すると企業支援や困り事に対応できる人を紹介してもらえるほか、登録している弁理士等の専門家の無料相談会に参加できるといったメリットがある。ACTが文化芸術版の商工会議所になればよい。 ・高額でなくてよいので、ACTを通してアーティストと企業がマッチングした場合、斡旋手数料が入る仕組みにしたらい。	武内
	・高額ではなく、1,000～2,000円くらいの会費であればとってもよいと思う。それだけでの金額で企業とマッチングできるならメリットがある。	藤井
	・会費を徴収する場合、SNS等での活動情報の発信を強化してあげてはどうか。	宮崎